



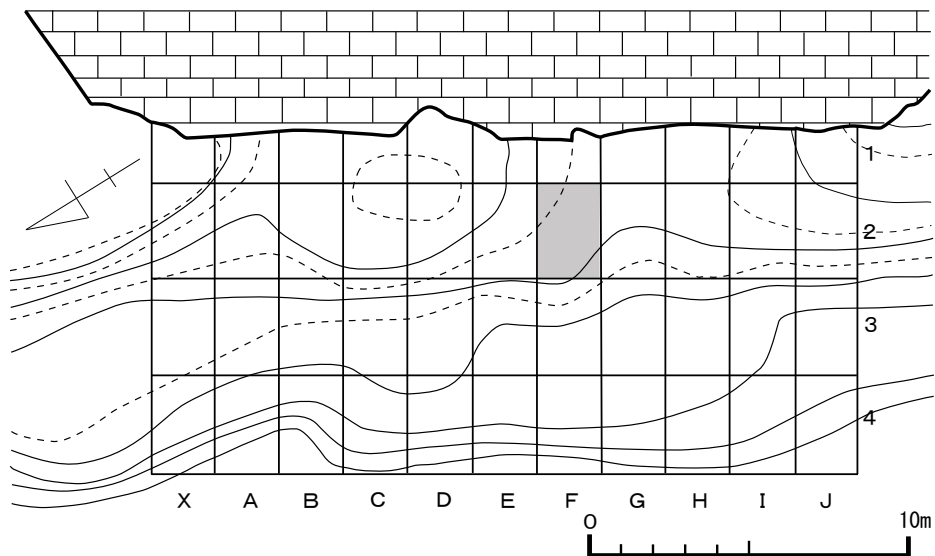
2006年度帝釈峡遺跡群発掘調査 II期 (8月17日～24日)

久代東山岩陰遺跡 (くしろひがしやまいわかげいせき)

今年度の調査目標は、昨年度の調査で遺跡利用の中心と思われる場所付近から検出された溝状遺構 SX02 の広がりとその性格を明確に把握し、更に遺跡の岩陰側南北方向における土層堆積状況を確認するために、F-2・3区を第7層(無遺物層)まで掘り下げることです。

I期の調査では、F-2区の東側においてSX02の一部が検出できました。II期の調査では引き続きSX02の広がりを確認するために、F-2区と、F-3区の東側・G-2区の北側の一部を掘り下げました。この結果、昨年度の調査で予想された範囲よりも広い範囲からSX02を検出しました。

SX02は当初の予想に反してF-2区のほぼ全体とF-3区、G-2・3区にまたがる遺構



久代東山岩陰遺跡調査区の配置 (網掛け部が今年度の調査)

であることがわかりました。また、G-2 区の SX02 上面の層からは鉄製品が 3 点見つかっており、このうち 2 点は実際に使用されていた物とは考えにくく、あるいは祭祀に使われていたものかもしれません。

今期の調査では SX02 の検出と遺跡の性格を把握するために SX02 の平面図と断面図をとり、掘り下げを行いました。Ⅲ期の調査では、SX02 と他の層の土層堆積状況を把握するために SX02 の中央付近を帯状に掘り下げて行きたいと思います。また、本遺跡は今年度で調査を終了するため、調査終了後に遺跡保存のための作業を行います。

(久野陽香 3年)

コラム1 「初めての発掘調査」

私は今回初めて発掘調査に参加するまで、発掘調査に対して漠然としたイメージしかありませんでした。そして、いざ実際に調査に参加してみると、自分が何をすればいいのか、この作業はどうすればいいのかなど、わからないことがたくさんあって大変でした。



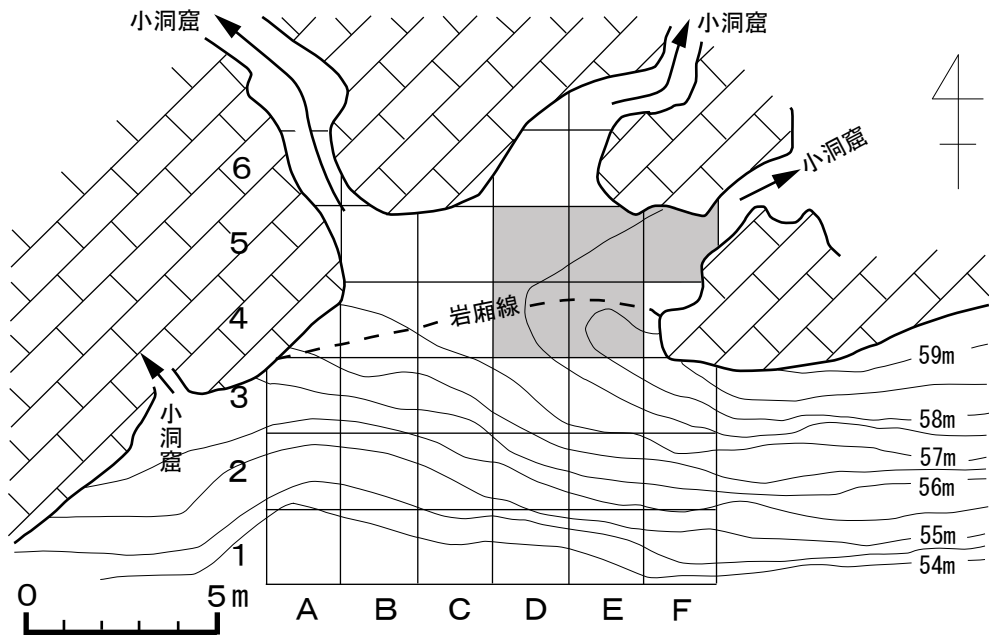
しかし、実際に本物の遺跡にふれるということで、資料などだけではわからないことが、違うところがでてきたりして、実際に自分の手でふれるということの大切さがわかりました。例えば、土の質がどの層でどうなっているのか、文章では分かったつもりになっていても、本物ではわからなかったり、どこまで掘ればいいのか困ったりしました。しかし、自分で遺物を見つけた時はとても嬉しくて、疲れが一気に吹き飛びました。最初はどれが石でどれが土器片なのかがよく分からなくて、先輩たちに聞いていたのが、次第に分かるようになりました。

このようにして少しずつ発掘調査にも慣れてきましたが、まだまだ分からない所がたくさんあるので、残りの期間をできるだけ有意義なものになるよう頑張りたいと思います。

(兼弘奈津枝 2年)

帝釈大風呂洞窟遺跡 (たいしゃくおおぶろどうくつせいせき)

帝釈大風呂洞窟遺跡は神石高原町永野字大風呂に位置します。この遺跡は、1984年の調査によって確認され、1996年から発掘調査を行っています。洞窟は幅約11m、高さ約3m、奥行き約4mあります。また洞窟内外に広がるテラスは40㎡程です。



帝積大風呂洞窟遺跡調査区の配置（網掛け部が今年度の調査）

洞窟は南に向かって開いているため、入口付近の日当たりは良く、また多少の雨ならしのぐことができます。昨年までの調査から、この遺跡は縄文時代早期（約9000～7000年前）から古代・中世まで断続的に使用されていたことがわかりました。古代・中世の層からは土鍋や皿、鉄釘、鉄鎌、火打金、銅銭などが、縄文時代の層からは土器や石の矢じり、魚を採る網につける石のおもり、貝製の腕輪などが出土しています。また縄文時代より昔の層からは現在日本には生息していないレミングの一種や絶滅種のネズミの仲間の骨が出土しました。

当遺跡では現在I期に引き続き第2層の調査を行っています。この層は主に古代・中世に利用されていたと考えられている層で、当時の土器片が出土しています。今期調査をしているE-4区から5区にかけて土器が集中して見つかった部分があり



ました。連続的に土器が埋まっています、これらの土器はこの場所に、おそらく短期間の間に置かれたか捨てられたかしたものと思われます。一方F-5区においては昔の人が火を焚いた跡である焼土も見つかりました。D-5区においても焼土が見つかりましたが、こちらのほうがもっと大きいものです。

今年の期間中に縄文時代の層である第3層を掘り始める予定です。機会がありましたらぜひ見学にいらしてください。

(実盛良彦 3年)

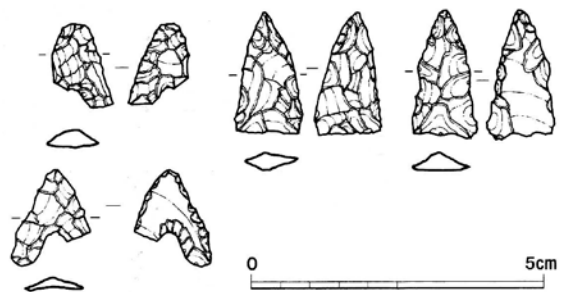
コラム2 「私の栄養剤？」

大風呂遺跡の発掘に参加させていただいて、3日目。いつものことながら大風呂洞窟遺跡へと登る道は非常に辛いです。傾斜もさることながら木の根っこや倒木、ぬかるんだ泥にも苦しめられました。幸い、筋肉痛にはまだ苦しめられていないのですが、当然遺跡まで上がりきるころには息は切れて足はがくがくするし、汗はだらだらとたれます。登りきってしまえば洞窟ということもあり、日陰は涼しく、また木が茂っているので日光もそれほどきつなく、とても過ごしやすい場所なのですが…。下りも足を滑らせないようにと気を使わなければならないものの、登りよりは比較的楽に下りることができます。そしてお腹をすかせて下へ下りればお弁当が待っています。空きっ腹には何よりもうれしいイベントである昼食です。また、この日は少し時間に余裕があったので満腹になったところで少しばかりうとうとすることができました。川の音と蝉の声、そして木々や葉のこすれあう音を聞き、涼しい風を感じながらまどろむ幸せ。ああ、マイナスイオンと思いながらしばしの幸せに浸りました。そして午後、再度遺跡へ登るときには不思議と朝より体も軽く、苦しいながらも順調に登りきることができました。疲れた体においしい食事と素晴らしいお昼寝は私にとって何よりも効果のある栄養剤だったのかもしれない。

(谷真由美 2年)

帝釈峽遺跡群の遺物あれこれ

今回ご紹介するのは現在調査中の久代東山岩陰遺跡で昨年出土した石鏃(せきぞく)です。石鏃とは文字通り石で作られた「やじり」のことで、弓矢の矢の先端に付けられていました。今回の図にあるものは、重さは0.3g～0.8g、大きさは



どれも3cmに満たないものばかりです。石鏃には硬くて割れやすい種類の石が使われ、石核とよばれる大きな原石から他の石器や槌など硬い木の棒を使って小さな断片を切り出し、さらに鹿の角などを用いて細かな形状を作り出していきます。今回のものは全て安山岩で作られています。他の調査では黒曜石を用いたものも見つかっています。縄文時代の帝釈峡の人々はこのような道具を用いて狩猟を行い、生活を営んでいたのです。

(田崎健裕 2年)

帝釈発掘今昔その1

平成18(2006)年は帝釈峡遺跡群発掘調査を開始して以来、45年の節目となる年だ。今年はある事情で、私はフル出場の調査担当となった。ところが、久しぶりの学生との合宿は戸惑いばかり増えた。その辺りの事情を含めて、ここで古き良き時代(と私は思っているのだが)の発掘を振り返りつつ、何回かにわたって、帝釈峡の発掘調査についての今昔を物語ってみることにする。

今ごろの学生さんはとにかく食べる量が少ない。それに呑まない。私がお昼のお弁当の量が少ないと文句を言うと、必要分お米の量を計って用意しているので、そんなことはないのたまう。でも私には足りないのだ。そんなことで肉体労働ができるのだろうか、と心配してしまう。原因は発掘のやり方にあるようだ。確かに私が現役の頃は大胆かつ大胆にガンガン掘っていた。今は慎重かつ慎重にホソボソやっているようだ。つまり、肉体労働の量が違うのだ。今の学生さんは力なくても知恵があるのが大切らしい。

お酒も呑まない。食事の時もさっさとご飯を食べる。結局、私は最後まで一人で食卓のイスを温めることとなる。かつて発掘を始めた頃、共同研究者の杉原荘介先生(故人・明治大学名誉教授)が帝釈の調査に参加された時、当時は調査団員は帝釈の老舗旅館、「とらや旅館」に宿泊していたのだが、先生がお酒を召し上がっているのに学生が食事を始めたので、さあ大変。ワシが酒を飲んでいるのにもう飯とは何事か、と烈火のごとく怒り出されて、そこら辺にあったお銚子やら杯を帝釈川の中に投げ捨てられてしまったのだそうだ。今は昔の物語。

当時は量の上の生活があった。今は机とイスに大変身だ。調査から帰って、食事をすませて就寝までの一時、車座になつての議論やトランプ遊びはとっくの昔の戯れ事だ。今では学生さんは何よりもプライバシーを大切にす。さっさと自分の席に座って、自分の世界に浸る。

昔はよかった、と嘆いてみても、先生、あまり昔を振り返るばかりでは先がありませんよ、とまたぞろのたまう声がする。

(発掘調査室長・古瀬清秀)

人物往来

(8月18日～21日)

京都大学人間・環境研究科大学院生 石丸恵利子さん

(8月20日)

時悠館主催発掘研究科体験参加者の皆さん (19名)

(8月23日)

広島大学大学院文学研究科長 富永一登氏

陣中見舞い

足羽さん ジュース、ビール

石丸さん ジュース・コーヒー

小田さん ビール

大本さん お菓子

倉本さん 果物、ビール

順田さん ジュース、お菓子

時悠館館長 中越利夫氏 ビール

神石高原町 飲み物

福岡さん ビール

藤井さん 果物

発掘者名簿 (2期8月17日～24日)

広島大学大学院文学研究科 教授 古瀬清秀

〃 助教授 野島永

〃 大学院生 荒平悠、岩崎佳奈、下元優、竹村崇、谷岡能史、前田剛伸 (以上M1生)

広島大学文学部学生 河戸祥陽、久野陽香、実盛良彦、辻村哲農、中川志保美 (以上3年生)

兼弘奈津枝、田崎健祐、谷真由美 (以上2年生)

同志社大学文学部文化史学科 大本朋弥 (1年)

本年度は8月2日～10日、17日～23日、25日～31日までの3期間、東山・大風呂の両遺跡で発掘調査を行う予定です。お気軽に見学に来て下さい。遺跡の見学には山登りおよび川を渡れる服装でお越し下さい。ありがとうございました。

(編集 荒平悠 M1)